

第1回 ドラマチックなスタート

学生の熱意が 創り上げた学び舎

本学は、2019年に創立90周年を迎えます。
これを機に改めて歴史をひもときながら、
本学の独自性に富んだ教育や研究についてご紹介します。
第1回は、きわめて稀な創立時のエピソードにスポットを当てます。



【創業者】

Tsunetada Oikawa



及川 恒忠

(1891-1956)

1929年、放校処分となった東京高等工商学校の学生らは、当時慶應義塾大学法学部の教授をしていた及川に「安心して勉学できる学校を作ってほしい」と要請。及川は、親友の西村有作に相談し、学校の発足を決めた。

Yusaku Nishimura

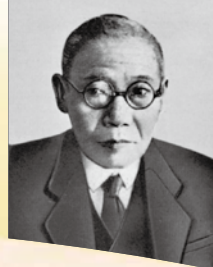


西村 有作

(1890-1959)

1929年、昭和工船漁業株式会社経営などにより資産家であった西村は、同じ慶應出身の及川恒忠に学校設立資金の出資要請を受けて承諾。初代理事長となる。

Takemasa Tezuka



手塚 猛昌

(1853-1932)

東洋印刷株式会社などを営んでいた手塚は西村有作と同様に及川恒忠から学校設立資金の出資要請を受けてこれに応じた。また、日本初の時刻表「汽車汽船旅行案内」を発行した「時刻表の父」としても有名で、財界人としても活躍した。

本学は、1929年に創立された「武蔵高等工科学校（後の武蔵工業大学）」と、1939年に開校した「東横商業女学校（後の東横学園女子短期大学）」が、2009年に発展的統合を果たしたことによりスタートし、現在では、6学部18学科を擁する総合大学となりました。

“工業教育の理想”を求める学生たちとともに、 本学の発展に尽くした人々

本学の源流の一つである「武蔵高等工科学校」の歴史は、今からさかのぼること約90年前の1929年に、十数名の若者たちが、東京高等工商学校（現在の芝浦工業大学）を飛び出したことに始まります。舞台は、関東大震災から6年を経たものの、完全復興への道は半ばにすぎず、未だ社会も経済も混乱期にある東京府大森（当時）です。

当時、1927年の開校から2年ばかりであった東京高等工商学校の教育内容に、満たされぬものを感じていた学生たちは「実験や実習で腕を磨きたい」と、授業の充実を求めて学校に改善を要求します。

しかし学校との話し合いは不調に終わり、結果として学生たちは放校処分を受けてしまいました。それでも、勉学への思いを断ちきれない学生たちは、3人のリーダー（宮尾薫、柳田次郎、佐藤康実）を中心に再就学のために奔走します。

この時、彼らが頼ったのが、同校の非常勤講師でもあり、学生たちの信望厚かった慶應義塾大学法学部教授の及川恒忠でした。理想家肌で学生思いの及川は、学生たちの熱い思いに共鳴し、親友で昭和工船漁業株式会社 代表取締役の西村有作に新学校設立の資金協力を求めました。その後、両名は、東京府知事（当時）の認可で学校をスタートさせ、時期を見て専門学校に昇格させる方針をとります。この時、日本で初めての時刻表「汽車汽船旅行案内」を発行し「時刻表の父」としても有名な手塚猛昌も賛同し、資金を提供しています。

そして、及川・西村・手塚の3名は、現在の東急電鉄池上線 大崎広小路駅にほど近い、旧沖電気株式会社の工場跡地に、1929年9月、東京府の認可を得て「武蔵高等工科学校」を誕生させたのです。

開校主旨

工業に従事せんとする者の為に
須要なる学科を授け有為の技能と堅実なる
国民思想とを涵養せん事をもって目的とす

経済的にわが立国の基礎は樂觀できない状況にある。
天産豊かならず、人口過多なる
わが国が進むべき道は工業的發展の一路あるのみ。
求められつつあるのは、
この方面における有為堅実な人材の出現である……



- ① 1929年の創立時、東京府荏原郡大崎町（現在の大崎広小路駅東側）にあった武蔵高等工科学校の仮校舎。
- ② 現在、大崎広小路駅入口脇に設置されている「東京都市大学 発祥の地」記念碑
- ③ 1932年に武蔵高等工科学校は目黒区大岡山に校舎を移転。

- ④ 初期の実験室。実験器具は企業からの協力による品が多かった。
- ⑤ 世田谷キャンパスに設置されている建学の精神「公正・自由・自治」の石碑。
- ⑥ 1942年の尾山台駅と学生たち。
- ⑦ 1939年に学生数の増加により、現在の世田谷区玉堤に移転。

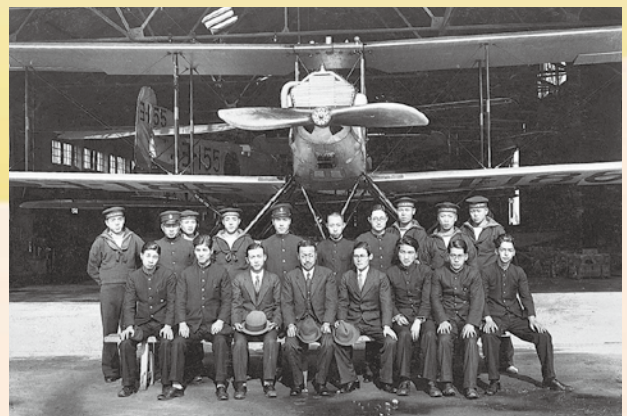
創立時の学び舎は、木造2階建ての工場をそのまま使用したため設備も十分でなく、また、目黒川に近い低地でもあったため、大雨が降るとすぐに浸水してしまうようなところでしたが、学生たちの熱意と志が生み出した「本当の学びを求める」理想の場でした。

その後、1932年には目黒区大岡山へ、1939年には現在の世田谷区玉堤へと移転を果たした本学は、日本政府の工業立国策のもと、多くの優秀な人材を全国から集め、実業界を中心とした社会へ卒業生を輩出し続けることとなります。

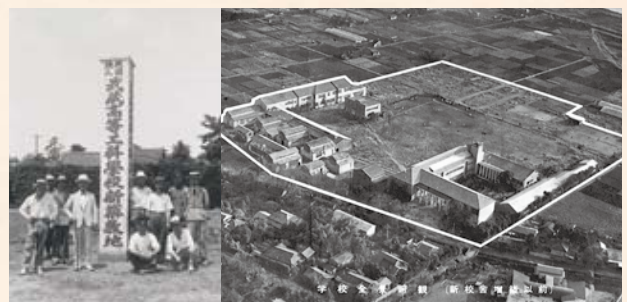
継承し続ける建学の精神「公正・自由・自治」は夢と希望のシンボル

創立時の設置学科は、電気工学科、建築工学科、土木工学科（昼間部221名、夜間部157名）でした。教員はもちろん、学生たちも実験・実習に必要な機械・器具類を集めるために奔走すると同時に、設備の不備を補うため、学外の工場や研究施設を見学しながら、夏期休業には工場実習も励行し、そこで得られた知見を学校に持ち帰って共有したそうです。

創立者の一人である及川によって作られた建学の精神は「公正・自由・自治」。自分たちにとって本当に必要な学びはどうあるべきかを模索した学生たちと、これに応えた人々の思いを具現化したものです。本学は、この優れた精神を継承しながら、新しい時代と社会の要請に応えるため、さらなる進化を続けていきます。



創立当初は外部施設の実習等で、実験設備の不足を補った。



世田谷区玉堤移転当時の様子。周囲は田園風景が広がっていた。

次号No.210(2018年12月発行)では、「都市大グループの祖 五島慶太翁と東横学園」を紹介します。